

# 東京 陵 水

賀 正  
平成16年 元旦  
陵水会東京支部役員一同

## 年頭挨拶

### 陵水会員相互の交流と 啓発の促進を

陵水会東京支部長

宇治原 嘉政 (大7)

東京陵水の皆様、明けましておめでとうございます。

会員の皆様におかれましては、多事多難だった過去一年を振り返りながら、また新しい気概を持ってこの新春を迎えられたことと存じます。

二十一世紀に入り成熟した日本を再活性化しようというプロジェクトが、社会全般で鋭意試行されつつあります。しかし破壊の痛みと創造の苦しみが、社会各層の複雑な利害得失と絡み、その成果が見えないまま新年に至っております。

母校滋賀大学もこの埒外にあらず、大学行政改革の一環として、単独行政法人としてのスタートを本年四月に切ることにあります。これは明らかに見切り

発車の様相を呈しており、この新しい行政法人の運営をいかに成果あるものに結び付けていく

かは今後の大きな課題であり、単に学内の方々のみならず、学外の同窓生を含めた多くの方々の支援を必要としています。

幸い母校の諸先生のご努力により、旧高商系としては初めて大学院後期の博士過程の設置が認められ、昨春「経済経営リスク専攻」コースがスタートしました。

グローバル経営を強いられる企業人にとって経済・経営リスクの予知と判断は必須の課題であり、母校にこのような課程が設けられたことは実学の拠所として心強いかぎりであり、しかしこの経済・経営リスク研

と考えられます。各方面で活躍中の会員のみならず、おかれましては、このような状況に配慮いただき、一歩踏み込んだ母校との連携を今後一層お願いする次第であります。

母校は創学以来八十年「土魂商才」を「建学の理念」とし、高度専門職業人の育成に努め各界に活躍する人材を送りだしてきました。

現下、戦後の日本経済を支えてきた終身雇用年功序列をベースとする組織運営はその威力を失いつつあります。IT化の進展とグローバル化の拡大により、マネージメントは変化への対応力をより一層厳しく求められています。高度の専門知識を有し、しかもスピードある対応が出来る人材が求められています。母校はこの変化に対応し学部に幾多の学課を増設し、更に今日は後期博士課程の創設に至っております。企業の求める人材に対応していこうという動きであります。スピードに溢れ、高度の知識を吸収しようとする意欲のある人材を多数輩出し、新しい彦根スクールが創学八十年の伝統の上に更に新たな輝きを添えるべく学外からも陵水会



究が成果あるコースとして世に認められてゆくためには、その研究が学内で純粹培養されるに留まらず、実社会で活躍する陵水会員の生の体験に基づく知識と相互交換され、研究成果を確実なものにしていくことが肝要であります。世に言う産学協同の実が図られなければならない

高度専門職業人の育成に努め各界に活躍する人材を送りだしてきました。

是非とも母校の今後の発展のためご支援のほどお願い申し上げます。

6	面	総会講演内容(戸田俊彦教授)
5	面	滋賀県の歴史・文化を学ぼう
3	面	十五年度東京支部総会他
2	面	創立八十周年記念式典
1	面	宇治原東京支部長年頭挨拶
9	面	こんにちは(玉井義臣氏)
12	面	ゴルフ談義・囲碁会
13	面	同窓の集い
14	面	彦根コンフィデンシャル
15	面	八十周年記念募金既応募者名一覽
16	面	広告



総会での就任挨拶



水男声合唱団

式は母校経済学部の大和田教授の司会、「礼」の発声で始まった。まず、正面演壇に整列した、全国から集ったグリークラブOBを中心に構成された陵水男声合唱団と、参列者一同が

現役学生の経済学部オーケストラ部の伴奏により、滋賀大学歌・彦根高等学校校歌（一から三番）を斉唱、大きな感動の拍手が沸いた。

滋賀大学経済学部長北村裕明教授の式辞、滋賀大学宮本憲一学長の挨拶の後、国松善次滋賀県知事、陵水会岡田一理事長の祝辞が続いた。この日は他に彦根市、滋賀県、神戸大学等関係の深い大学の代表者が来賓として列席、司会者から紹介された。祝電の披露の後式典が終了した。引き続き休憩の時間を挟んで、午後二時三十分過ぎから記念講演会が始まった。北村学部長の講師紹介挨拶を受けて、伊藤忠商事株式会社代表取締役社長丹羽宇一郎氏により、「現代企業経営とリスク」の演題にしたがって講演が行われた。

「重大な災害の発生の前には、多くのひやっとしていたり、はっとしたりしたことが何回も起きています。企業経営上のリスクも同じようなことが言える。わが国の政治経済の現状について言えば、アメリカのドルへの世界的な傾斜、中国の経済発展と元切上げ、日本の財政赤字などが大

きなりリスク要因となるだろう。さらに未だ需要不足を解消するような政策の発動もない。これもリスク問題を抱えている。企業経営の本質は資源、人、金を未知の利害に投じて利益を引き出してゆくことで、企業経営の本質がリスクそのものである。リスクコントロールはもぐらたたきに似て、あちらのリスクを叩けばこちらから別のリスクが顔をだす。リスクを完璧に避け

るよりも小さなリスクを平均化してゆくこともある。伊藤忠商事のリスク対策として、リスクアセットを計算してリスクをコントロールする手法をおこなっている。またリスクマップを作成し、どんなリスクがどの位の頻度で、どのくらいの金額で発生して来ているかを掴み職員に徹底する努力をしている。企業経営にとりもつとも恐ろしいリスクはコーポレートブランドリスクである。ミルクの問題、牛肉の問題で見ている通りである。また仕事のマニュアル化の進行は役割分担にも隙間を作り、他人の仕事、分野に対する

無関心さを生み出しているのも大きなリスクである。リスクの問題は最終的には心理学の問題になる。最もリスクに向き合うのに大切なことは、常識と良識を持った真つ当な人間を教育し、知の勇氣をもったリーダーを輩出してゆくことである。（次号に概要掲載）」。一時間以上わたる講演は、スクリーンに投影されたリスクコントロールの手法図面を説明しながら、時々ユーモアを交え、温かな話しぶりのなかに時代に対する警告を含め、聴衆は大きな感銘を受けた。

講堂での式典が午後四時前に終了したのち、出席者一同は用意された数台の大型バスに分乗して、祝賀会場の彦根プリンスホテルに移った。開会前から宴会場正面で唱う「水男声合唱団の、「琵琶湖周航の歌」や「故郷」の調べが細やかに流れ、会場の雰囲気盛り上げた。午後四時二十分頃から同ホテルプリンスホールの宴席を約三百人が埋め、祝賀会が開催された。

杉本和嗣滋賀大学副理事長の開会の辞から始まり、岡田一陵水会理事長の挨拶、祝辞には中島

## 滋賀大学経済学部創立八十周年記念式典 厳かな雰囲気の中、盛大裡に開催

が午後四時前に終了したのち、出席者一同は用意された数台の大型バスに分乗して、祝賀会場の彦根プリンスホテルに移った。開会前から宴会場正面で唱う「水男声合唱団の、「琵琶湖周航の歌」や「故郷」の調べが細やかに流れ、会場の雰囲気盛り上げた。午後四時二十分頃から同ホテルプリンスホールの宴席を約三百人が埋め、祝賀会が開催された。

### 式辞

○北村裕明滋賀大学経済学部長

滋賀大学の母体をなす彦根高商は、大正十一年十月第九番目の国立の高商として設立、大正十二年に最初の学生が入学した。八十年のあいだ二万四千余



丹羽伊藤忠商事社長 講演

済界を中心にして多くの人材を送りだしてきた。戦後の学制改革に伴って発足した経済学部は社会情勢の変化に対応して拡充改組をすすめ、経済、ファイナンス、企業経営、会計情報、情報管理、社会システムの六学科から構成される。一学年の学生定員は五百五十名、教官定員百十九名の、国立大学経済学部中では最大規模の学部で成長した。特徴ある学科の設置に見られるように、日本における経済学部の先端を走ってきた。また大学院は昭和四十八年に経済、経営二専攻の修士課程を、平成十三年には第三の専攻科目であるグローバルファイナンス専攻を設置した。そして今年八十周年の記念すべき年に、大学院後期課程経済経営専攻の発足をみたことはとりわけ嬉しいことである。本課程の設置により修士、修士、博士の全ての学位を出すことが出来ることになった。またこの「リスク」に関する研究は社会学系では日本で最初の教育機関である。今日の社会においてリスクマネジメントの必要性は急速に高まっており、来年の二月に予定されるリスクセンターの設置はリスク専攻とともに日本におけるリスク研究及



北村経済学部長挨拶

び調査の飛躍的な前進をもたらす、日本ばかりでなく世界に貢献できるものと確信する。

十月に国立大学法人法が制定された。立法の趣旨は国立大学が自己責任により、一層教育と研究に力を注ぎ国民の要請と期待に答えることにある。滋賀大期課程経済経営専攻の発足をみても来年四月から大幅な改革を進めてゆく準備をすすめている。個人個人のこれまでの研究を進展させながら組織としてリスク研究を重点的に進めてゆく。八十年の歴史と伝統をふまえて、更に個性輝く経済学部作りに邁進するつもりである。

チンゲン大学に初めて経済学部が出来た。その一年後に出来たケルン商科大学はケルンの市民が浄財を寄付して設立されるという歴史を持っている。わが国の場合も帝国大学に経済学科が設立されるのは一九〇八年のことであった。実は最も早く経済学の殿堂として設立された東京高等商業学校が、東京商科大学として昇格、設立されたのは一九二〇年であった。当時日本が工業化、都市化が進んで、非常に沢山の専門家が必要になった。そこで高等教育の見直しが進み、その時に私立大学が大学として認められ、東京商科大学もその流れに乗って誕生した。その時に全国に高等専門学校や高等学校の増設があり、わが彦根高等商業学校も九番目の高等商業学校としてこの地に設立された。

近江商人の伝統のあるこの地に官立専門学校として、市民はこぞって高等商業学校の設立を願った。市民は一九二二年に官立専門学校が出来るということに変な期待をして、ケルン商科大学の設立と同じような気持ちで浄財を集め大きな寄付をして此処に誘致をした。この市民の熱意で、この地に、近江商人の伝統を持って商業の高等専門



宮本滋賀大学学長挨拶

教育をやるうとして作った事は大変意義のあることで、改めてこの設立のときの精神、そして期待というものを引き継いで行きたいと思っている。

魂商才」と言うことを全体的にどう生かしてゆくかと言うことが今も問われている。滋賀大学経済学部になってからも、極めて素晴らしい経済人、公務員、研究者を輩出して、先輩の方々のお陰で「全国最小規模の総合大学」であるけれど、その成果は世間でも十分認められている。国立大学法人化を前にして、この伝統というものを更に発展させたい。それには卒業生、地域の企業や市民の方々に支えられなければ将来の発展はない。国内外を通して「滋賀大学は何か」という特色を明確にしなければならぬと思っている。幸いにしてリスク研究センターが発足する事になったので、これを此の大学の大きな研究の柱として社会に貢献する中心にしたい。

また大学全体としては、滋賀県は琵琶湖を抱えていて環境県であることから、環境研究というのが国際、国内的に見て教育研究の柱と考え、「環境総合研究センター」を発足して内外に環境政策、環境研究の総合的な成果を社会全般に発信してゆく。

この大学の誇りは近江商人の研究であるが、同時に東アジアの研究の蓄積の利用をあらためて考え、中国韓国その他対アジア

また大学全体としては、滋賀県は琵琶湖を抱えていて環境県であることから、環境研究というのが国際、国内的に見て教育研究の柱と考え、「環境総合研究センター」を発足して内外に環境政策、環境研究の総合的な成果を社会全般に発信してゆく。

この大学の誇りは近江商人の研究であるが、同時に東アジアの研究の蓄積の利用をあらためて考え、中国韓国その他対アジア

また大学全体としては、滋賀県は琵琶湖を抱えていて環境県であることから、環境研究というのが国際、国内的に見て教育研究の柱と考え、「環境総合研究センター」を発足して内外に環境政策、環境研究の総合的な成果を社会全般に発信してゆく。

この大学の誇りは近江商人の研究であるが、同時に東アジアの研究の蓄積の利用をあらためて考え、中国韓国その他対アジア



参列者一杯の式典会場

この大学の誇りは近江商人の研究であるが、同時に東アジアの研究の蓄積の利用をあらためて考え、中国韓国その他対アジア



国松滋賀県知事祝辞

アとの関係を密にしながら大学の発展を図ってゆきたい。これからの社会の力を全体的に引っ張りだしてゆくと同時に、社会に貢献できる成果を発表し協働してゆきたい。

○国松善次滋賀県知事祝辞

歴史あるこの講堂で、学歌や校歌を聞いていると、滋賀大学経済学部は八〇年の間に、この大学は八〇年の間に、沢山の、実業界を中心に人材を育ててきた。これは近江の誇りであり滋賀の財産であると思う。この歴史と伝統を築かれた大学の関係者、卒業生に敬意を表し感謝したい。八〇年前は滋賀県の人口は六十五万、現在は百三十六万で丁度二倍になっている。各都道府県の人口は減っているが、滋賀県の人口は増加率日本一であり、平成三〇年ま

で人口が伸び続ける唯一の県だと言われている。この理由は滋賀の位置にある。主要な道路、鉄道が滋賀を通過してゆき、大阪、名古屋、北陸の経済圏の接点であること。また琵琶湖があることが大きな力である。琵琶湖とその周りに広がる平野、それを囲む山が人々を引きつけ、それが人口増加の要因と思う。この滋賀の地はこれから大きな役割を果たせねばいけないと考えている。それは二十世紀の反省の上になら、人間と自然との共生を、暮らし方、産業の在り方、社会のルールのなかから見つけ出さねばいけないと言われている。この湖水のある

と環境の両立に向けて高い専門性を持ったグローバルな視点で活躍する人を育てて、滋賀の地を支えていただく開かれた大学として発展してほしい。

○岡田一陵水会理事長祝辞

滋賀大学の前身の彦根高等学校は士魂商才を建学の理念とし、高等専門職業人の養成を目的とするところである。八十の近江商人にゆかりの深い金城下に設立された。以来八十年にわたり輩出された二万四千人に登る卒業生が、わが国経済社会の発展に次々と貢献してきたことは、同窓生として大いなる誇りとするところである。八十

年の間、変転極まりない歴史の波に洗われながら、大きな進展を遂げてきたことの重みをつくづく感じる。大学法人化によって、国立大学は自己責任性を高め個性を発揮しながら一層社会に貢献してゆく事が期待されている。外部の評価システムが導入されてゆくことにより、大学の競争が一層激しくなると予想される。同窓生としてはこの現れ方がどの様な評価を受けることになるのか、その先行きについて大きな関心と期待を持つ

て見守ってゆく。陵水会としてはできるだけ支援と協力をする用意がある。学長、学部長の将来に向かっての話に意を強くして、心から期待している。八十周年記念事業として私ども陵水会は大学と協力して、リサーチセンターを中核とした戦略的分野の研究協力に、それから創造性重視の学生教育の強化、この基本的立場に立って経済学部のグローバル戦略を支援してゆく事を決定した。今後ともますますこの基本にそった戦略が実を結ぶように期待したい。滋賀大学経済学部は八十年の歴史と伝統を継承しながら、かつ時代の変化を先取りして、二十一世紀の社会に貢献し発展されることを心から念願する。

員百三十余名のもと、楠田迪彦氏(本24)により議事が進められ、議案は全て問題なく承認された。母校経済学部長北村裕明教授の来賓祝辞の後、経済学部戸田敏彦教授の「今、成功する企業家・ビジネススマンの条件」の演題により講演会が開催された。

(十五年度陵水会年報参照)

①平成十四年度決算報告

収入の部 二、六八七、〇二二円  
(前年度繰越 二、四一九、九三二円)

支出の部 二、四八二、九九八円  
(次年度繰越 二、六二三、九五五円)

財産目録 三、七三三、九五五円

②平成十五年度予算

収入の部 五、三九六、九九二円  
支出の部 (収入の部と均衡)

③役員改選(支部長、幹事長以外) 副幹事長…西野 宏、中川 寿一、小口 晃、田村 寿夫  
監事…高木 早苗、星出 潔

平成十五年度東京支部総会  
新支部長に宇治原嘉政氏(大7)

平成十五年度東京支部総会は、平成十五年六月二十五日、東織厚生年金会館で開催された。今回の当番幹事は大学十

五回卒業生。小池英夫支部長の任期満了により、新支部長に宇治原嘉政氏(大7)が満場一致で選出された。また幹事長には箸方海三氏にかわり、守谷貞夫氏(大12)が選出された。出席会

創立八十周年記念フォーラム(変革期における二十一世紀の企業経営)の開催

平成十五年九月二十八日(日)午後一時から、母校経済学部講堂において、滋賀大学経済学部創立八十周年記念フォーラム(変革期における二十一世紀の

企業経営」が開催された。フォーラムは、テーマへの関心の高さとともに、陵水会による初の自主企画並びに運営による開催であることで、同窓生はもとより、在学生、市民の大きな反響を呼び、講堂の一階フロアは満席の状態であった。

## 平成十五年度

### 第二回役員幹事会

平成十五年度第二回役員幹事会がさる十一月二十六日(火)午後六時から、文京区後楽の後楽園会館で開催された。当日の幹事出席数は二十七名。新執行部として初めての幹事会であり、執行部用意の議案書が配付されてから、守谷貞夫新幹事長(大12)が司会を、各議案について、宇治原嘉政新支部長(大7)の説明のもとに議事が進められた。

基調講演一「二十一世紀の新しい経営環境と企業経営」福島吉治株式会社CSK相談役(大4)。基調講演二「日本の製造力復活に向けて」松下電器の挑戦「戸田一雄松下電器産業株式会社代表取締役副社長(大12)」。基調講演三「競争激化の中、急速に再編成進む小型モーター業界」ローテク組立部品の日系企業に生き残る道はあるか」羽淵展也マブチモーター株式会社常務取締役(大14)。コーディネーター・桂 泰三シャープ株式会社顧問(本23)

録されている幹事の数は現在約八十名。年度によっては複数幹事のところもある。事務局では幹事の年度毎の確定、完全充足に努力するとともに、現任幹事にも役割意識を持つて積極的に活動するよう呼びかけを行う。八十周年記念学術後援基金個人募金について…十月二十四日付募金本部からの通知によると、八十周年記念学術後援基金個人募金の状況は、企業関係募金は既に目標額に達したが同窓生を中心とする個人募金が目標額を下回った状況にある。募集期間を本年二月まで延ばして、一層の協力を求めるとのことである。当支部として、支部長名で陵水会職域別名簿により管内各企業、団体の同窓生代表宛に協力促進依頼を出状した。また一月発行の機関紙「東京陵水」に既応募者二六六名の氏名を掲載する事にした。(十五ページ参照)

「近江歴史塾」第一回が、昨年七月二日と三日、いずれも午後一時半から同四時半にわたる「近江の文化」まつり」の二つの講演が、両日とも同じ内容で進められた。会場は滋賀県出身者を中心に多く、スライドを加えて視覚から入る祭りの情景説明には、聴衆の理解を促すのに十分だった。

中でありまだ決定していない。これから一般的な作業に入る予定。  
支部旅費規定について…従来から東京支部旅費規定はなく、支部役員の出張は自費で賄っていることが多かった。今日役員に就任する会員の事情も変化しつつあり、「支部活動の出張は支部経費で負担すべき」とのルールに戻り、取り合えず本部から要望のあった会議への出張旅費を支出することにする。現在評議員会、支部長会議のための出張については本部負担になっている。  
以上議案の検討が終了後、午後七時三十分から懇話会に移り、親睦と意見の交換が見られた。終了は午後九時。

## 滋賀県の魅力溢れる歴史文化を学ぼう

### 「近江歴史塾」が開講

「近江歴史塾」第一回が、昨年七月二日と三日、いずれも午後一時半から同四時半にわたる「近江の文化」まつり」の二つの講演が、両日とも同じ内容で進められた。会場は滋賀県出身者を中心に多く、スライドを加えて視覚から入る祭りの情景説明には、聴衆の理解を促すのに十分だった。

※(六頁三段へ続く)



きるかどうかということ、二つ 解答が出てこない。今の場合、めは洞察力、あるいは先見力があるかどうかということ、三つめは、統率力・リーダーシップ、四つめが決断力があるかどうかです。この四つを持つている企業家、ビジネスマンが成功している確率が高いです。

(一) 柔らかい頭、柔軟な発想ができるかどうか

そこで先ず、皆さんが柔らかい頭の持ち主であるかどうかを、ちよつと調べさせていただきます。ローマ数字ⅠⅡⅢⅣⅤ……のⅩに線を一本加えて六にしてみたいんです。できる方は頭が柔らかい方です。私は、それをいわれたときに全然できませんでした。線を一本加えよと言ったら、殆んどの方は直線を頭に描いてしまふんですね。曲線も線なんです。ですから曲がった線ならどうかと発想できると、考えられるということが柔らかい頭なんです。

一つの答えに、Ⅹの右に6を書くとⅠ(1)Ⅹ(カケル)6(ロク)Ⅱ6(六)ですね。そうなんです。またⅩの左側にSを書くとSⅠⅩとなり6です。はじめて聞いて出来ればいいんですが、我々は固定観念に捉まえていて、なかなか

はどうしたらいいか聞かれるわけですね。これは無理難題なんですけれど、「わかりません」という人もいれば「なんでこんな問題出すんだ」とねじ込む人もあるわけなんです。結局、その反応を見るわけなんです。それを、「ムツカシゴサル」(六菓子五猿)という答弁が出来るという人がいるんですよ。こう



戸田教授の講演

ということ。皆さん方が、柔軟な発想が出来ないとなると、若い人が提案してくるのを握りつぶすとか、あるいは叱り飛ばすとかいうことを止めるだけで、日本の企業はもつともつと柔軟な発想による新しい製品だとか、新しい市場の開拓が可能になると思います。

## (二) 洞察力

洞察力、決断力、統率力とかを、先ほど申しましたが、そんなものは先天的なものだろうと言つてこれませんが、実はこれらは後天的に自分でその気になつて育て上げる、磨き上げることの出来る能力なんです。

## (三) 統率力

統率力はある人とか、洞察力のある人らは、企業経営を行う中で、こういったものをちゃんと見つけ出しているということ

いう人はもう海軍士官当然合格なんです。海軍で、敵の奇襲を受けたり魚雷を発射したり、難局を切り抜けるときにそういうたヒョイヒョイとやる発想が必ず必要なんです。

今、柔らかい頭を誰がもつてるかといえますと、それは子供なんです。企業経営においても若い人ほど柔軟な発想が出来る

洞察力について、一宮の織物の産地の経営者調査をした中で、「あの経営者はいつも翌年の物の企画が当る」といわれる経営者がいました。その人は「柄とか生地の場合は、政治家のファッショに注目して、政治家のファッショに注目して」といいます。尾張一宮は元総理大臣の海部俊樹さんや故・江崎真澄さんの選挙地盤だったんですが、その政治家のファッショに注目しているということです。政治口を打ち間違えることのないように、繰り返しているはずなんです。今

の若者は口で言われたことは、右から左ですから、経営者は、銀行さんに頼んで、三億円の現金を見せただいて、ゼロを一つつけ間違えたらどうなるかを知ってもらうような教育をするんです。一つゼロを付け落すと三千万、札束の厚さが全然違いますよ。

#### 風俗産業を見習え

そこで、洞察力とか先見力を身につけるのに何か手がかりになるものはということですが、漫然と企業経営に取り組んでい

#### (四) 決断力

たならば決して得られません。先見的な動きのある要素とは何かと、いつも見ながら企業経営

していけば、間違いない決定、洞察が出来るわけです。その意味で、ちよつと古い話になりませんが、日本でモーターゼーションの波という一般家庭に車が浸透していった時代、それは昭和

三十年後半から四十年代ですが、その波にいろんな企業がどう対応したかを振り返ってみると、その先見力、洞察力は見えてくるんです。

その波にいち早く手を打ったのはラブホテルですよ。例えば名神のインターの出口を、いち早く押さえちやったんなんです。本来、駅の裏とかですが、

広大な用地を取得し車で来るお客様を多数引き寄せるといふことをやった。ですから、こういう風俗産業、いつてみれば性欲

産業です。

その次に対応したのがスカイ

ラークとかロイヤルとかいった外食産業ですね。これも幹線道路のいい場所に立地して、ファミリーを引き付け、大いに発展していきましたね。この産業は食欲ですね。その次はパチンコ業界で、駅前では手狭になってきて、一気に郊外へ、それも幹線道路の要所を占める形で展開をはかった。パチンコ業界は将

に射幸心を煽る金欲ですね。一番遅れてモーターゼーションの波に乗ったのは、書店(本屋さん)です。本屋さんというのは今やつと大型点を大きな道路沿いにチェーン化してきたということ。先ほどから言っている業界に要所は占められた後を、高い値段を払いながら郊外に展開を図っている状況です。本屋さんというのは知識欲です。大きな波に対応するのは結局は性欲、食欲、金欲、そして

なぜか。それが先ほど申しました柔らかい頭に関係してくるんです。ラブホテルを経営する人たちが、国籍は問いませんけれど、知識とかものごとにとらわれない人がいち早く対応することです。本屋さんがなぜ遅れるかということは、本屋さんは知

識欲産業で、自分で知識があると思ってるから、結局対応するのが遅れちゃうわけです。極端な言い方をすれば自分が一番偉いと思ってますから、対応しようどころでないわけです。自分に周りが合わせないのが不満なくらいに思ってるわけです。遅れてしまうんです。

ですから、洞察力、先見力を付けようとするれば、こういう風俗産業を観察すると本当に面白いですよ。例えば、ノーパン喫茶というのがはやった。そして、すぐののぎきというのが出てきました。名前を変えてファミリーマックス、すぐにキヤクラとか次から次へと見事です。今、インターネットをちよつと覗いてみたら、風俗業界がいいところをいかに多く占めてるか、これやはり時代への対応に速いんです。

それから、統率力、いい人材を集めるといふことですよ。夢を語ってそのように動かしていけば、業績のあがる企業になることは可能です。

新たなことをしなければならぬためには、獨創性、ユニーク性、個性といったものを出すことですね。企業が採用選考する時に、獨創性のある学生を派

遣すると、必ずはねられてくるんです。その理由は多分、チームワークがよろしくないからとか、ありとあらゆる理由ではねていくと、結局は粒の小さい人物で満足しなければならぬということになります。ですからわたしは加山雄三を採れとい

つて、優が三つ、ただしその優の三つというのがすごい。無茶苦茶創造性があるとか、すごく外国語の能力に長けていて、外国人をものともしないとか、何かすごい能力を持つてるとかいうことです。こういった「可山優三」のなかに金の卵があるんです。

今は日本企業の行き場がないといわれておりますが、こういう風に見ていくと決してそうではないと思います。そんななかで立派に成功している企業さんもビジネスマンも一杯いるわけです。皆さんにこそ、そういう仲間には是非加わっていただきたいということがございます。是非皆さんに成功する企業家、ビジネスマンになっていただきたいと念願して講演を終らせていただきます。今日は本当に有難うございました。

あしなが育英会会長

玉井 義臣氏 (大6回)

平成十五年春、「あしなが運動と玉井義臣(歴史社会学的考察)」(副田義也著)という著作

が出版され、朝日新聞書評欄でも取り上げられた。表題中の玉井義臣氏が、大学六回卒で、長年、交通遺児をはじめとする幅広い遺児救済活動に携わって来られたことは、周知のとおり。

編集子では、これを機に、同氏をお訪ねし、社会人一年生の頃の思い出、多くの方々との交流、あしなが運動の現状、将来などについて語っていただいた。

玉井 全く何にもしていません。芹橋六丁目に住んでいて、「魚仙」へメシ食いに行っていただけです(笑)。授業も何にも出なかった。ほんとに遊ぶというか、映画を観たり、本を読んだり、大学にも出ていません。

それは、卒業されてジャーナリズムに眼をつけられるとい



うことに関係ありますか。

玉井 いやそれもないですね。

——今日は、玉井さんがこれまで取り組んでこられた、遺児救済の「あしなが運動」を中心として、これらにまつわる色々なお話を承りたいと存じますので、よろしく願います。

学生時代は、クラブ活動などなさっておられましたか。

「玉井君が行くから何とか面倒みてくれ」という口添えをいただいて入社したのです。ところが、東京の街中へ名刺だけ持たされて投資信託を売りに出さされても、関西の人間ですから、言葉がうまくいきません。一年でクビですよ。

——それは、卒業されてジャーナリズムに眼をつけられるとい

て、同文館という経済書、特に会計学の方では有名な出版社に「何か、本書かしてやってくれ」と紹介されて、五、六冊本を書いたのですが、「書いては売りの執筆と営業活動の両方をやっ

て、やっとならぬ口をしのいでおりました。

——インタビュ誌ですか。

玉井 たとえば「株の兵法」という本では、兜町の証券会社の重役いわば「株の名人」に相場の格言をもとに相場の極意を聞き、株の新聞に連載して、それをまとめて本にして買ってもらうというやり方で、百人位は取材しましたね。

——売れましたですか。

玉井 まあ飢え死にしない程度に……。

——「証券よ今日は」の三十年後半頃で、ソニーやホンダがえらい勢いで伸びていた頃です……。

その後、金融・証券の「市場用語辞典」というようなものをコツコツと書いてみたり、「商品市況欄の見方」などという、言ってみれば、日経新聞の見方みたいなものを同文館で書かしてくれました。しかし、いずれも本気ではありませんでした。メシのためです。

母親の奇禍を転機に

——本気ではないとおっしゃいますと、何か夢みたいなのをお持ちだったわけですか。

玉井 いや、それがなんにも無かったですね。人生、夢も理想も無かったです。

——そんな時、母親が交通事故で亡くなりましたものだから、「真人間になる」ことになるのです(笑)。

あれは、二十八才の終り頃でしたかね。そこからちよつと真面目に世の中のことを考えるようになり、それからは真つ直ぐです。

——そうした、これまでの人生を、端的に「こうだと」表現したくとしたらどんなものでしょう。

玉井 母の死を契機に、株から交通問題の評論に変わり、交通

評論家時代は専ら交通犠牲者救済策を行政に訴え、事故防止策を自動車産業にモノ申してしました。それがテレビ時代(注:「桂小金治アフタヌーンショー」やNHKの報道番組に継続出演)でしょうか。それから、交通遺児問題に出会って、「評論家」から「運動家」の方へ変わっていくわけです。

——評論は、親を無くした遺児、遺族の心の叫びを世論に、政治に訴え、その行政の立ち遅れを論文にして発表することです。運動は被害者救済の実践の「継続」が必要です。経済成長を牽引した自動車産業が非常な勢いで伸びていき、その影のよう

に、被害者が増えていった。しかも、その被害者に対する対策はほとんどどうたれていない。昭和四十五年に交通事故のピークがきて、一年に一〇〇万人位の人が亡くなったりケガをしました。その頃は経済も超成長期に入っており、あらゆる産業が潤って、ポンポン給料が上がっていましたが、交通遺児は極貧でした。

——昭和四十四年に、若いボランティア十万人位で、「交通遺児育英会」を立ち上げて、永野重雄氏(当時 富士製鉄社長、後

の(日商會頭)に会長になってい

ただき、永野さんの親しい財界  
人百人以上に役員をお願いし、  
大きな信用を得ることができま  
した。永野さんは、小学校五年  
のときにお父様を病気で亡くさ  
れ、当時、十人の兄妹をお母様  
が苦勞して育て上げられたとい  
うご経験がありましたので、こ  
の仕事には心からの応援をいた  
だきました。

——それは、当時の玉井さんの  
交通評論家としての積極的な活  
動に対して、各界の方々の賛同  
があったということでしょう  
か。それにしても、ご自身のご  
苦勞もありましたでしょう。

玉井 私 は田中龍夫総務長官  
(編集注：当時)とお話しして、  
永野さんに会長就任を頼んでい  
ただいた結果引き受けていただ  
きました。永野さんも、四百も  
五百も肩書きのある方なのです  
が、この交通遺児育英会につい  
ては五本か十本の指の中に入れ  
て、みずからもあちこちで語っ  
ておられました。そして、永野  
さんが日銀総裁の宇佐美さんの  
兄上の宮内庁長官のところへ行  
かれて、秩父宮妃殿下に名譽総  
裁をお願いしていただきました。  
いつも街頭募金に立っていら  
ただきました。これで、いやが

うえにも信用を増しました。  
一昨年、神戸の「レインボー  
ハウス」に天皇、皇后両陛下が  
行幸啓いただき、信用は磐石に  
なりました。

最高の人を得られたというこ  
とです。しかし、お金となると  
官も政も冷たいし、財界も金は  
出しません。

募金中心の活動推進  
——そうしますと、やはり募金  
というものを中心としてすすめ  
て来られたということですか。

玉井 そうです。遺児やボラン  
ティアの学生が街頭募金活動の  
主体となり、それが三十六年間  
続いていきます。また、毎月一万  
円とか、千円とか、継続してく  
れる「あしながさん」の支援募  
金全体の六、七割にも達したの  
です。

永野さんに会長をお願いした  
ときに、「オレは金集めは一切  
せんぞ」と言われ、「二十億円  
くらい集めたい」とお話しした  
ら、「そんな夢のようなことを  
言うな」と言っておられました  
が、十億円集まった時に報告  
に行ったら、「へえー」と驚か  
れました。四十七年頃でしたか  
ら、夢のような金額でした。  
——今、「あしなが育英会」と

いう名称になっていますけれど  
も、「交通遺児育英会」の頃に  
も、「あしながさん」という言  
葉は付けておられたということ  
ですか。

玉井 そうです。昭和五十四年  
につくった制度です。「あしな  
が育英会」では、交通遺児より  
はるかに多い病氣遺児、災害遺  
児、自殺遺児の進学と心のケア  
をすすめています。奨学生は、  
大学生各学年三百人余、高校生  
千人余、他に専門学校生、大学  
院生がおり、平成十五年度の奨  
学金予算は十八億円を突破す  
る、民間最大の育英団体です。

——街頭でエネルギーシユに募  
金活動をやっている若い方々を  
見受けるのですが。この人達の  
エネルギーの源泉というのは何  
でしょうか。

玉井 私は三十年間、遺児学生  
に同じカリキュラムを課してい  
ます。まず第一に、遺児である  
「自分」を知ること。父の死後、  
母と子はどのように変化させら  
れたか。山中湖畔で全国の一年  
生が集まって、友と自分史を語  
り合うことで、「自分とは何か」  
を考える。次に高校生の集いで  
リーダーになって弟や妹の自分  
史を聞き、「合わせ鏡」で「遺  
児とは何か」を知ると同時に彼

らを励まし、よき兄姉となる。  
第三に、他の母子家庭を訪問調  
査して自分たちが置かれている  
社会的貧窮の仕組みを考える。  
最後に、秋、母子家庭の代弁者  
として街頭募金で訴える。だか  
ら、声も大きく、人の心を打ち、  
応援者が増えるのではないでし  
ょうか。街頭で大学生の訴えを  
聞き、「あしながさん」になる  
方が多いですよ。

——今の世の中、若者の考え方、  
行動に色々な問題が指摘されて  
いますが、どのようにお考えで  
すか。

玉井 私も東京農工大学の客員  
教授をしていますから、遺児以  
外の若者とも多く接しています  
が、彼らはとても素直なんです。  
ただ素直なんですが問題意識は  
乏しいし、本も読まないし新聞  
も読まない。今、大学、短大、  
専門学校に進学率は七割くらい  
になっていないのではないでしょ  
うか。「選ばれた」者でなく、  
大半の人がいくという時代で  
す。彼らが無気力で内向き志向  
なのは、親や家庭が教育に自信  
を無くし、学校に任せ放しです  
ので、知識はあっても志がない、  
自己中心的な子が多くなってい  
ます。これも四、五十代の親の  
鏡でしょう。

グループ指導で目に見える成長  
——先程うかがった、大学生の  
高校生などに対するグループ指  
導の体験が彼等の成長に影響を  
及ぼしていますか。

玉井 目にみえて変わってきま  
すよ。必ずしも皆が変わるとい  
うのではないのですが、こちら  
を向いている子供達は変りま  
す。ですから、今春出版された  
「あしなが運動 玉井義臣」(岩  
波書店刊)の朝日新聞の書評の  
中で、荻谷剛彦東大教授(社会  
教育学)に私たちの教育運動に、  
「二樓の希望を託すことがで  
きる」と評価をいただきました。  
学校が忘れてしまったこと、親  
たちがグブアップしてしまっ  
たことに、私たちはコッコツと取  
り組んでいるのです。

——そうした、若者への教育の  
中で最大の眼目は何でしょう  
か。

玉井 リーダーづくりです。社  
会に出たときも、問題意識をも  
って勉強する「問題解決型の学  
習」をしなさいと教えています。  
今までやってきた偏差値を上げ  
るための「銀行預金型の学習」  
では、通帳が貯まったらウハウ  
ハということですが、知識はど  
この抽斗に入っているか判らな  
い、ただ通帳だけは金額が増え

ている。これでは、問題解決に何の役にもたない。これは、日本の教育の決定的な悪さです。高度経済成長の中でそういう人間を企業と資本と文部省でつくってしまったんです。今は、全く答えの無い時代です。ですから、今は、「問題解決型」学習で、「考動力（自らの頭で考え行動できる力）をもつ人間」を育てることが重要です。

「セルフイメージ」というアメリカの心理学者の考え方をいつも話します。目標をもたせる、目標に向かって自助活動をする。人間の体の中には潜在能力があつて、目標に邁進すると、誰もが持っている成功のシステムが働いて、目標は成就する。私自身の体験を話してもあまり信用されないのですから、この学者の話をするのです。

私は「セルフイメージ」というアメリカの心理学者の考え方をいつも話します。目標をもたせる、目標に向かって自助活動をする。人間の体の中には潜在能力があつて、目標に邁進すると、誰もが持っている成功のシステムが働いて、目標は成就する。私自身の体験を話してもあまり信用されないのですから、この学者の話をするのです。

私自信の体験として敢えて言うならば、母親の交通事故による死に直面した時、日本に脳外科の専門医が極めて少ないことを知り、強い問題意識を抱いたのです。人の命の値段の安さと、保険による補償の不合理さを知り、これは行政が悪いと思ひ、法律や医学の本を読んだのです。学生の時勉強など何一つしなかつた私ですが、問題意識が



玉井氏関係図書の一部

玉井 まあ、そうですね。プラスイメージを持ちなさいという

ことです。松下幸之助も同じことを言っています。目標を成就できないのは、目標を、ある時期に捨ててしまうからだ、目標を持ち続ければ目標に近づくと彼は言っています。古今東西の偉人、哲人、成功者は全く同じことを言っています。道元禪師も。人生というのは、そんなにむづかしいものではない。一点、自

分の目標を決めてつき進んでいけば、それに近づいて来ると私は信じています。子供とか学生に対しては、大人や親がそういうことを教えることが大事なことです。志しというか、人生や仕事に対する少し高い目標です。

### 「塾」による教育の場充実

——具体的な、教育の場についてはいかがでしょうか。

玉井 再来年の春、東京に「あしなが心塾」という人づくりの寮をつります。アルバイトせずに、月一万円で二食付きです。で、月五万円の奨学金で学生生活はOKです。生活保護の子でも東京の私大に進学できます。そのかわり色々なことを教え込む。志しの高い、腕っ節の強い「闘士」を育てる場です。

「心塾」は、大坂「適塾」の祖・緒方洪庵の曾孫の緒方富雄先生（血清学の権威）が、二十五年前に、遺児学生に奨学金を送っているだけではダメだから、人づくりの「塾」をつくれと唆されました。緒方先生は教育の上での私の恩師です。人を育てるにあたって何が大事かといえば、「心」それが人を人にするのだ」と教えられました。

分の目標を決めてつき進んでいけば、それに近づいて来ると私は信じています。子供とか学生に対しては、大人や親がそういうことを教えることが大事なことです。志しというか、人生や仕事に対する少し高い目標です。

——これまでの、育てられた遺児諸君の中からは、人材も多く育っているとのことですが。

玉井 ハーバード大学医学部の準教授をやつて、その後四十才で慶応大学医学部の教授をやつている俊秀。もう一人、ハーバードの医学部助教授がいます。関西では、関学の経済学部の教授に四十二才でなつた者。人権弁護士、自民党副幹事長と、多士済々です。

——そういう優秀な先輩がいるということは、後輩の張り合いになりますね。

玉井 やっぱり、「あしながさん」たちもお金を出していただいでいて嬉しいのではないのでしょうか。

——今、育英資金を受けている方は何人くらいなのですか。

玉井 今までに既に、六万五千人くらいです。すでに五、六百億円の奨学金が使われています。

——今春出版された「あしなが運動と玉井義臣」（陵水会年報）（九月一日号）にて紹介済）の著者・副田義也氏とのご関係はどのようなものですか。

玉井 昭和四十九年以来、当会関係の調査を毎年やっていたので、言わば日本の母子家

庭研究の第一人者です。筑波大学の筆頭副学長をやつてこられた方です。

——これですすめてこられた事業と密着していると云えますか。

玉井 そうです。先生の調査は街頭募金の時期に合わせて進め、マスコミにも調査結果を流したりして、その折を中心として街頭募金を行うというようなやり方になります。そういうキャンペーンの工夫を私がしています。

### これからの夢

——これからの「夢」みたいなものはいかがでしょうか。

玉井 二十一世紀の日本では、所得と教育の二極化がおこります。世界でも子供が「飢え」とか教育が受けられない問題が深刻化します。そこで、私たちはウガンダに拠点を設けて心のケアをやっています。平成十五年の十二月に、エイズ遺児の心の傷を癒す「ウガンダ虹の家」を立ち上げます。これは、海外での第一号です。そこへは、スタッフとして毎年四人くらい青年を送り込む予定です。小さくとも世界の遺児と共生できる

「原型」をあちこちにつくりた

# ゴルフ談義

いと考えます。その中で、受験戦争で後れをとっても、世界で活躍できる新しい日本人が生まれると信じています。

もうひとつの夢は、前にのべました「心塾」で、二十五年のノウハウをもとに、新しい時代の、人類有用の人間づくりに挑戦したい。今の教育は、技術や知識は教えても人生を教えない。これは、日本社会の滅亡への始まりではないでしょうか。

先程お話ししたウガンダの子供を東京の「心塾」へ連れてきて、日本の大学へ入れて、私達ももっているノウハウを教え、国へもって帰らせる技術移転をしたいとも思っています。

貴重なお話をうかがってまいました。最後に一言ごさいましたら、お願いいたします。玉井 芳谷先生の一筆と、それに応えていただいた高安先輩の厚い温情でここまでこれたように思います。ああいう人が途切れないような同窓会であってほしいと思います。

——ありがとうございます。



阪神が  
ヘルメットで  
社会貢献

## 第五十四回東京陵水ゴルフ会 平成十五年六月十一日(水) 金乃台カントリーC

### 梅雨中の貴重な晴天

毎年四、六、九、十二月の年四回、六月は梅雨の雨、十二月は寒さ対策で第一週開催としていたが、今回十組の枠が一週目にとれず、雨を懸念していたが、東京陵水のジンクスが又も果たされて、前日と翌日の雨の日に挟まれた、好天のゴルフ日和。予報の雨のせいとか、直前の欠席が多く、三十七名の予約のところ当日は三十一名、これは反省材料。次回からキャンセル料を三日前まで千円、当日二千円としては？との声が多数あったことを付記する。

それでも三十一名はこの一年では多いほう。先輩、後輩の組み合わせで和気あいあいの中、熱戦、ハンディに比較的恵まれた好スコアの上位者の中、ベスグロの名口さんの健闘が光り、優勝、ベスグロ、三、六、十位と大十四回卒の活躍の目立つ一日で、他に小口、古山、平居の三君が参加。

### 記録 ネット(ハンディ)

優勝	山本	保(大14)	66(30)
二位	原沢	伸治(大4)	68(27)
三位	北村	徹(大14)	68(23)
四位	楠田	迪彦(本24)	70(22)
五位	吉原	悟一(大9)	72(21)
六位	名口	幸夫(大14)	72(7)
七位	橋本	侃(本22)	73(25)
十位	丸居	裕(大14)	75(18)
十五位	天木	清次(大8)	78(7)
二十位	三井	照次(大10)	81(4)
BB	野口	泰良(大3)	86(34)
ベスグロ	名口	ニヤピン	三
井	西坂(大9)	・中川(大	
10)	・宇治原(大7)	・山本(大	
14)	大波	大久保(大6)	小
波	柴田(大2)		
(参加者三十一名)	(箸方記)		
第五十五回東京陵水ゴルフ会			
平成十五年九月十六日(火)			
金乃台カントリーC			

### 残暑のなか、熱戦!

冷夏の八月から、九月になって夏らしくなってきたこの日、三十名の参加で、同期中心のベアリングで、和気あいあいの内にも熱戦を展開、前回優勝者がメーカーに、前々回ブービーが準優勝にと、毎回のことながら悲喜劇が繰り返され、初参加者も、福島(大4)、平居(大12)、木戸(大16)の三名で裾野の広

がりが楽しみ。結果は七月の総会で新支部長になられた宇治原さんが6アンダーで快勝、支部一段の発展に好スタート。

八十周年記念募金の企業部門で活躍された福島さんからも、個人募金協力の呼びかけもあり、有意義な一日であった。

### 記録 ネット(ハンディ)

優勝	宇治原嘉政(大7)	65(24)	
二位	中西	三二(大5)	70(30)
三位	北川	亨(大4)	71(26)
四位	田村	寿夫(本12)	72(30)
五位	竹内	鋭二(大4)	73(19)
七位	平居	俊雄(大12)	73(11)
十位	柴田	茂夫(大2)	76(8)
十五位	山本	孝之(大9)	77(13)
二十位	天木	清次(大8)	80(7)
BB	蓑島	安夫(大4)	87(17)
ベスグロ	三井照次(大10)	78	
ニヤピン	天木、三井、宇治原、		
平居、木戸、井口(本21)、西			
沢(本24)	大波	平居	小波
保正(本24)	(参加者三十名)		
(箸方記)			
第五十六回東京陵水ゴルフ会			
平成十五年十二月三日(水)			
金乃台カントリーC			

初参加者四名加わって盛会  
初冬十二月ながら、比較的温  
和なゴルフ日和、前々日まで四  
日間の雨続きとかで、フェアウ

## 東京陵水会囲碁会便り

去る二十三年十一月二十七日、東京陵水会囲碁大会を千代田区五番町にある、日本棋院本  
※(十五頁へ続く)

## 経専二十四回同窓会

平成十五年四月三日（木）、琵琶湖に面したエクシブ米原にて、経専二十四回同窓会を開催した。幹事と地元委員の努力により、三十二名の会員が出席して盛会であった。

母校を見学後、夕食を兼ねた懇親会を行い、大半は宿泊したので夜遅くまで昔の懐かしい旧友とこころゆくまで語り合い、歌い、楽しい一時を過ごすことが出来た。物故者の冥福を祈り、黙祷したあと、母校開学八十周年行事のこと、国立大学法人化の問題、大学院博士コース「リスク管理」講座設置等の話が出て、滋賀大学経済学部の実発展のため学術後援基金の募集等記念事業に協力していくことになった。

また古希を過ぎて、大半が

悠々自適の身となった我々にとって、日々をいかに元気で過ごしてゆくかが課題であり、そのためには心身とも壮健で、何事にも興味を持って、積極的に参加し行動する事が大切であると話し合った。そして来年の同窓会にも元気で再会することを約束して閉会した。

尚、翌日、同好の有志九名は彦根カントリークラブでゴルフを楽しんだ。

（本24 楠田迪夫 記）

## 東京三三会（大6回卒）

### 東京支部の集い

当支部には関東以東の在住者約五十名が属している。現在、大野一郎兄を会長に据えて支部運営を行っている。例年三月三日の支部総会と十二月の忘年会が定例会になっている。毎回約半数の二十五名前後が集まる。特異な集いは毎月原則として第二水曜日の午後五時に集まる月例会である（「仮称」魚や一丁会）がある。銀座・京橋の首都高速下にある居酒屋「魚や一丁」の一室にて開いている。参加者は通例十二名前後で多い時は十七名位集まり、ここで年間行事の打合せ等をしている。都合の

つく者が集まる自由参加である。

その中で、常連に名前を連ねているのは、青木滋、臼井靖、大野一郎、大久保義男、大石茂延、川村和男、北川春夫、草生知治、小林仁美、斉藤高康、四方雅之、長谷親禧、中村博一、林謙治郎、藤原多喜雄、三宅義男、渡部啓一といった諸兄である。

この会は、支部総会や忘年会及び旅行会以外の月に切れ目無

## 永遠の友情

# 同窓の集い

く続いている。月例会当日は、午後から大久保義男兄の囲碁教室が神田の囲碁サロン「ソーシヤル菖菀」で開かれ、林謙治郎兄を中心としたマージャン倶楽部もある。十七時に三々五々居酒屋「魚や一丁」に集まり、約二時間のあいだ歓談・会食をしている。会費も三千円前後で当日割り勘精算している。

官や講義の思い出、政治経済、家族、仕事、歳相応の病に悩んでいる者へのアドバイス、趣味や参加していない人たちの消息等多岐に渉り、思いつくまま語り合う一時を過ごしている。年に一度、九月ごろの一泊二日の旅行会もここで提案され会員に呼びかけている。温泉と囲碁やマージャン等と観光地の見物で無理をしない臨機応変のスケジユールで動く。二〇〇二年より中型のサロンバスを都度チャーターし、東京駅前を起点終点として旅行会を持っている。行き先は、これまで旅行経験の豊富な斉藤高康兄のアドバイスを得て月例会で決めている。ちなみに最近三年間の実績は次の通りである。

二〇〇一年 那須方面 ホテル金寿泊 殺生石・温泉神社を見学、那須岳に登り、帰路地ビール「銀河ビール」を飲む。

二〇〇二年 水戸大洗海岸方面 大洗・碧荘（大洗船員保険保養所・斉藤高康兄の紹介）泊サロンバスで早くから宴会気分で行く。水戸偕楽園で歴史の一こまを体験、子供心に帰って水族館を見学、翌日帰路は鹿島神宮・香取神宮、伊能忠敬顕彰碑で時を過ごして帰る。

旅行はやはり宴会が楽しみ。その地方のうまい酒と食べ物が多い。ちなみにサロンバスに於て夜の宴会では酒豪が多い割りに酒量がすすまない。年齢のせいもあると思うが。

気楽に集い、気楽な旅をして英気を養い、お互いに健康に留意しながら有意義な日々を送ろうと話合っている。



平成14年度 東京三三会総会 平成15年3月3日 於銀座魚や一丁

（大6 草生知治 記）

# 彦根コンフレイデンシヤル

——滋大陵水新聞会

## ○大学をめぐる諸問題

【駐輪場増設】学生時代の自転車通学の思い出を持っている人は多い。なけなしの金をはたいて中古品を買ったり、先輩の卒業の後に譲り受けたりして、利用したものだ。今日でも、アンケートによれば、七十四パーセントの学生が自転車通学である。他にバイクが十一パーセント、車が五パーセント。学生数の増加に伴い、駐輪場の不足を唱えている声が大きくなっていく。この不足が不法駐輪（決められた場所に止めない）の増加に繋がり、昨年四月には不正入構、不法駐輪の規制を行う事に決めた。しかし実際には十分な規制対策が取られないままに來ている。実際母校を訪れての最初の印象は、あちこちに自転車

の山が無造作に作られているという事である。駐輪場の収容能力が狭くなっていること、生活現場から離れて立地していること等から、駐輪場増設の声が大きい。学生の間では決められた場所に駐輪するといった、ルール遵守を励行しながら、駐輪場の増設を早期に実現してゆきたいとしている。

【施設について】現在の施設の整備状況は、学生数からみてクラブ活動や課外活動を進めてゆく上で不十分になってきている。学生定員数の増加に施設の量が追いつかず、不足が慢性化している。学生食堂は、四月、五月の新学期のころ、テスト期間などには利用者が集中、学生は時間をずらして利用を工夫しているが、五十分の昼休みで全ての学生が食事を取るのが難しい状態である。また、クラブ関係のボックスも不足してきた。現在の各ボックスの広さは十畳強とせまい。あるクラブは五十三人の部員を抱え全員が室内に収まりきれない有り様。また近年は女子学生の増加に伴い、体育館の女子更衣室も手狭になっていく。

【職員について】職員のことといえは、徳聖寮で、就職で、授業料で、図書館研究所でお世話になった人々を思い出す。今の

学生も概ね職員にたいして大きな不満を持っていないようである。「親切さが欲しい」という要望が強いようだが、大学法人化に向けて一層のサービス行動を求める学生が多くなっている。

【その他】教官本位のカリキュラムが組まれていて、学生を軽視しているのではないか、学生の立場にたつて欲しい。諸掲示については遠方からの通学者に配慮して、積極的にホームページやEメール等を活用すべきだ。

○NPO「スマス会議」について  
かつて内堀の際、旧彦根市民病院の近くに、一見寺院かと思えて、内部はキリスト教の礼拝堂の様式をとった目立たない建造物があった。平成八年、琵琶湖から旧彦根市民病院前を抜け



とりこわし前のスマス記念礼拝堂

る道路が拡幅工事に入るため、この建物は老朽化も進んで取り壊すことになった。事態を知った滋賀大学経済学部 筒井正夫教授（比較経済論）が、解体撤去の迫った同年八月の学内誌「月報」のなかで、この建物の由来を説き、文化遺産として保存すべきことを唱えた。

この建物、スマス記念礼拝堂は、一九三一年（昭和六年）、アメリカ人牧師パーシー・アルメリン・スマス氏（一八七六年、アメリカ・イリノイ州生まれ。昭和二年三月から昭和三年七月まで当時の彦根高商の講師として英会話を担当）が両親の慰霊のために建てたものである。建築にあたり彦根の大工宮川庄助氏が携わり、建築費用はアメリカ本国、パーシー氏、彦根市民から寄せられた資金で賄われた。

礼拝堂は外観は寺院、内部は教会の形態を取り、建物の装飾として、鳩や十字架、葡萄の葉など西洋的なものと、彦根城に使用されている装飾や松竹梅の模様など日本文化に由来するものが、違和感無く溶け合ったユニークな建造物であった。

筒井教授の「月報」の記事が契機となり、滋賀大、彦根市、同市議会議員、地元新聞等のなる

から、保存に向けての問題が提起された。保存運動はやがて当地の大学関係者、宗教界、建築家、事業者、マスコミ関係者、主婦、県議会等を巻き込んだ大きなものとなり、「スマス記念礼拝堂を彦根に保存する会」が結成された。その後「礼拝堂」としての宗教色を払拭し「記念堂」として「文化財としての建造物の保存」の対象としての「スマス記念堂」となった。保存のための建物の建材、付属備品、植栽など所有者から無償で平成九年に譲渡され、再建築に向けて活動がスタートした。

本年六月にNPO設立のため「スマス記念堂を彦根に保存する会」が発展解消し、名称を「特定非営利活動法人（NPO）スマス会議」に変更、彦根の青年会議所や企業家がNPOのメンバーに加わり活動の幅が一挙に広がった。「（NPO）スマス会議」の設立と同時に一般會員の募集を始めた。先般十月二十

六日には、滋賀大学経済学部講堂にて「スマス会議NPO認証記念オープンセミナー」が開催され百名を超える出席で賑わい、一般會員数も三百名を越えて運動の盛り上がりを見せている。

# 創立八十周年記念学術後援基金個人募金

## 東京支部既応募者名簿

(十月二十四日現在)

- 小林林平(本3)、高安規次(東4)、川瀬孝太郎 加藤(久(本5)、肥後盛文(本9)、松保田)福志(東5)、市川博史 居敏郎 荒井 章(本11)、小(別5)、田辺 怜 小池英夫 林嘉郎(本12)、伊藤茂之(本 川本 茂(大1)、澤井良治 13)、沼尻恒雄 安藤権一(本 亀井潤吉 四塚行雄 我孫子孝 14)、坂口正雄 船見祐治(本 刀禰館治男 岡田 巖 柴田茂 15)、神谷光雄 西田昭一 井 夫 郷 治雄(大2)、西尾光 上誠五郎(本16)、坂 松藏 信 清水克純 畑 宗明 神崎 小林越夫(本17)、日置平次 栄次 植村貞夫 増田茂樹 矢 水野信一 九鬼健蔵(本18)、野 昭 清水善和 吉村 恒 小笠原滋 石田定夫 古山利誠 小八木俊雄 野口泰良 用田政 横田春雄 高木克幸(本19)、一 田中(宇野)博 奥村忠夫 三浦信次 澤 成二郎(本20)、(大3)、北川 享 原澤伸治 鳥居和也 西村行雄 中辻喜蔵 松岡正曜 今井常清 樋上(田 豊田弘毅 梅沢誠質 河添治男 中)不二子 西岡隆夫 辻 昇 土田 茂(本21)、吉田作馬 平 箸方海三 佐々次郎 廣内 高山義雄 林 輝治 乾 光茂 士郎 山中英一 中島義男(大 橋本 侃 苗村壽一 伊藤亮三 4)、中西三一 細井恭一 天 多賀芳則 丹羽鑛治(本22)、 田志郎 樋上泰功 神谷 亨 古田光雄 高岡順一郎 高田博 岡田和義 三井正勝 龍口秀夫 世 松本 義 瀬川泰助 前川 山森保男 中川郁三 間宮昌蔵 彌之祐 西尾 寛 西田延弘 青島 弘 平野 広 石橋 勲(大14)、海老 洋 黒田悦司 門坂直三 近藤春雄(本23)、 (大5)、河合正紀 大谷毅丈夫 森 義紀 安立祥治 富田博司 高木早苗 岡田 浩 矢田佳三 草生知治 小林仁実 白井 靖 藤本幸延 馬島惟安 吉田勇夫 加納淳司 大竹德行 西澤 正 久木義雄 今宿隆弘 北川春夫(大15)、木戸 彪 木津勝治 若藪正夫 楠田迪彦(本24)、 三宅義男 高橋秀治 中村博一 浜口栄治 熊谷正和(大16)、 三上清一 日向保次(工1)、 川村和男 児嶋正次(大6)、 岡本和之 柴原良昭 豊田徳司 杉本哲堂(工2)、龍口郁夫 木下 実 磯部一郎 西野 宏 中根昌孝 柘 治三(大17)、
- 浦谷政夫 鈴木重成 市川浩久 松本 剛 野村竹志 武邑邦弘 「いざ望まん」と意気込みなが  
宇治原嘉政 佐野 了(大7)、 小椋清司 岡本文夫 彰山哲也 ら散会となりました。  
林 史欣 尾本政二 渡邊芳秋(大18)、竹森二郎 田辺 徹 戦績はAクラス(五段以上)、  
刀弥館信雄 大島明美 瀧川雅 門平孝二郎 寺井与利雄(大 Bクラス(四段以下)に分けて  
一(大8)、中川和己 吉原悟 19)、持田晴夫 大八木勉 平 行われ、Aクラスは、神崎栄次  
一 乗富俊二 藤本裕一郎 日 井善三 上野恵三 黒川雄三 六段(大3)が、Bクラスは、  
下部百也 西坂徹雄 小野 浩(大20)、蟹江好明 脇坂 守 小林満男初段(本19)が優勝。  
山本孝之(大9)、服部全孝 山下勝司 植野克美(大21)、 二位にはそれぞれ北村平太郎七  
井上善隆 佐藤秀孝 中川寿一 能島伸夫 長井和男 小林忠志 段(大5)、松原 実初段(大  
白井 健 山本啓司 山田宗弘(大22)、浜谷靖純 奥原和之 7)、三位にはそれぞれ中沢龍  
小西捷治 石垣 廉 小塩 守 坂本時雄 稲波信一(大23)、 彦六段(大10)、橋本 侃二段  
稲垣 讓 島山義生 細谷 隆 足立浩次(大27)、加藤義治(本22)が入りました。  
三井(原)照次 尾鍋純雄 坪田 坂田周平(大28)、坂根 徹 次回は、高段者、低段者をミ  
清六 宇野宏記(大10)、横田 吉本準一 緒方俊輔(大29)、 ックスして戦いをしたいと思っ  
善彦 丸山一彦 山内 徹 野 西尾治作 吉田繁喜(大30)、 ています。新規参加者は大歓迎  
一色公平 松本隆一 長谷村秀 黒岩征一郎(大31)、岩田雄一 です。特に若い世代の参加者を  
夫 各務 健 古澤 進 黒澤(大32)、藤井伸治 清塚 徳 望んでいます。始めて間もない  
日出男(大11)、奥村啓一 守(大33)、鈴木 誠(大36)両角 方も気楽に参加して下さい。参  
谷(佐名手)貞夫 堀川幸夫 堀 憲一(大37)、原 弘(大39)、 加希望者は幹事まで連絡くださ  
内 和 田村寿夫 稲邑明也 矢ヶ崎良成(大43)、岡崎由子 い。  
平居俊雄 宮野幸雄(大12)、(大46)、佐藤嘉代子(短1)、 幹事…三井照次(電話 ○四五  
小村三郎 近藤達也 野本弘文 北沢勝太郎(短5)、村上新也 一九四一―一七六一)、島山義  
赤木光明 若山 忠 小谷歳夫(短6)。 以上二百六十六名 生(電話○三一三八四八―二三 一)

※十二頁より

### 編集室 所感

院で開催しました。二十三名の多数の参加を得、和気あいあい盛大に行われ、嬉々もごものうちに終了しました。終了後成績発表を兼ねて懇親会を開き、戦いの模様を振り返りながら、遅くまで談笑が絶えませんでした。次回はさらに腕を磨いて

明けておめでとうござい  
ます。平成十六年度の総会は五  
月二十日(木)となります。従  
って、本誌次号の発行は四月一

謹賀新年

## 富士貿易株式会社

取締役会長 小池 英夫 (大1回卒)

代表取締役社長 藤本 幸延 (大15回卒)

〒231-0801 横浜市中区新山下3-9-3 ☎045-622-2307 FAX 045-625-2011

港運・海貨  
SEA FREIGHT HANDLING & TRANSPORT

物流センター  
DISTRIBUTION CENTER

物流と人のハーモニー

# TRANCY

国内一貫輸送  
INTEGRATED DOMESTIC TRANSPORT

国際複合輸送  
INTERNATIONAL MULTIMODAL TRANSPORT

## 日本トランスシティ株式会社

本社：〒510-8651 三重県四日市市千歳町6番地の6  
TEL 0593-53-5211 FAX 0593-53-4370 <http://www.trancy.co.jp>

専務取締役 豊田 徳司 (大17回卒)

東京・大阪・名古屋・鹿島・北海道・九州・ロングビーチ・シンシナティ・エルパソ・バンコク  
レムチャパン・シンガポール・ジャカルタ・マニラ・デューセルドルフ・香港・大連・上海



## 株式会社 金乃台カントリークラブ

代表取締役社長 大塚 英一

〒300-1211 茨城県牛久市柏田町3432

TEL 0298-72-0182 FAX 0298-72-3182

『今年も皆様のご来場をお待ちしております!!』



## 図書出版 株式会社 潮流社

代表取締役 武田 吉史 (大30回卒)

◎一般文学書・海運関係書の刊行 (自分史等の自費出版もお引き受けします)

105-0004 東京都港区新橋2-12-11 (新橋27MTビル)

TEL 03-3580-5670 FAX 03-3580-5242

湖国のうまい

第16回

ものど温もり

【鮎寿司】

【近江牛】

【近江米】

【近江茶】

【湖魚料理】

# 大近江展

◎会期/平成16年2月11日(木)~16日(月)

午前10時~午後7時30分 (最終日は午後6時まで)

◎会場/東京日本橋 高島屋 8階催事場

主催 滋賀県・(株)滋賀県物産振興会

【地酒】

【銘菓】

【唐橋焼】

【大津絵】

【創作人形】